

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2023年 2月 13日	
所属部局・学年	野生動物研究センター
氏名	岡本優芽

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
鹿児島、屋久島
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
野外生物学実習 B
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
2023年1月28日 ~ 2023年2月3日 (7日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学野生動物研究センター屋久島観察所、杉浦秀樹准教授
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習ではクジラの観察とヤクザルの群れの個体識別を行った。 森と海両方のフィールドワークを経験し実際の調査の様子を複数の観点から学ぶことができた。 この経験は今後のフィールドワークの機会や、フィールドベースの研究者と共同研究を行う際に重要となるだろう。
●スケジュール 1/28 屋久島へ到着。3カ所でクジラの観察 1/29 クジラの観察、ヤクザルのまだ個体識別されていない群れの個体識別 1/30 クジラの観察と天候の記録 1/31 クジラの観察。ヤクザルの個体識別 2/1 クジラの観察。ヤクザルは観察地点付近を探したが群れが見つからず 2/2 ヤクザルの個体識別と観察データのまとめ 2/3 清掃、帰宅
●成果 ○クジラの観察 視界が開けて海を見渡せる複数の地点からクジラの観察を行った。目視や双眼鏡を用いてBlow(潮吹き)を探しクジラの場所に目星をつけて、その行動を記録する。今回は合計6セッションでザトウクジラ( <i>Megaptera novaeangliae</i> )を観察することができた(表1)。Fluke up(尾びれをあげて潜る)やPec slap(胸びれで水面をたたく)など様々な行動をはっきりと見ることができ、陸からでもこんなに多くの個体が集まって海を泳ぐ様子を長時間観察することができることにとても感動した(図1)。また、それぞれの行動が見られた時間を記録したが、大体1回潜ってから次に水上にあがるまでには10分ほどの間があることを学んだ。定期的に水上にあがる様子を見て、知識としては理解していたがクジラも肺呼吸をしている哺乳類であることを改めて体感した。海での観察では、Weather reportも記録する。陸では似たような天気だと感じても、海の様子は日差しや風向きによって反射や波の高さにかかなりの違いがあり水面の様子が随分と変わる。これによって観察のしやすさも変わってくるため、天気についても意識して学ぶきっかけとなった。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

Session	Date	Time		Weather report					Observation		Behavior					
		Start	Finish	Cloud	Wind	Glare	Visibility	Sightability	Group	Individuals	Blow	Body	Dive (fluke up)	Breach	Pec slap	Tail slap
1	1/29/2023	9:32:00 am	10:25:00 am	No record					1	5 (min:4, best:5, max:5)	○	○	○			○
2	1/30/2023	8:44:00 am	10:15:00 am	C	5	2	2	2	1	5	○	○	○ fluke up		○	
3	1/30/2023	1:10:00 pm	2:10:00 pm	BC	3	4	3	2	1	2	○					
4	1/30/2023	2:41:00 pm	4:17:00 pm	BC	3	4	3	2	1	2	○	○	○ fluke up	○	○	
5	1/31/2023	8:29:00 am	10:39:00 am	BC	3	2	4	4	1	2	○	○	○ fluke up	○		
6	2/1/2023	12:40:00 pm	3:00:00 pm	C	5	2	3(28km)	2	1	2	○	○	○ fluke up		○	

観察場所  
 Session 1, 2, 5...A 地点  
 Session 3...B 地点  
 Session 4...C 地点  
 Session 6...D 地点



図1: ザトウクジラ (撮影: 三谷曜子教授 [WRC 海獣班])

○ヤクザルの個体識別

ヤクザル (*Macaca fuscata yakui*) の個体識別では、まだ個体識別がされていない群れを観察し、各個体の特徴を表、写真、スケッチにまとめた。1/29 に群れを見つけ、それらを数日かけて追っていった。全く見当たらない日もあり、個体識別がまだされていない、つまり全く分かっていない群れを調べることに携わらせていただくことでフィールドワークの試行錯誤の過程を体感できた。

初回は付近で観察されていたため1つの群れかもしれないと考えられていたグループが実は2つの群れであったことも分かり、グループAとグループBと名付けて記録した。各個体は年齢、性別、傷跡や指先の曲がり方などを特徴に識別する。はじめは見分けがつかなくても、ポイントを教えていただきながら観察を続けるうちに次第に違いが分かるようになり、観察最終日の夜のデータのまとめの際には写真や口頭での特徴説明をもとに各個体をイメージできるようになった。本レポートでは一例としてAグループの表とID 1の個体の写真とスケッチを載せる(表2、図2、図3)。全ての個体ではなく識別できる特徴を持った個体のみをまとめたものではあるが、特にBグループでは高齢のメス個体が多く驚いた。また、主観ではあるが両方のグループを比較したい際にAグループでは顔(特に目の付近)に赤い点が見られる個体の割合が、Bグループでは目の下が白い個体の割合が多い気がした。こういった特徴は遺伝と関係があるのか、もし関係があるなら各グループが主に過ごしている場所の違いなどとは関わりがみられるのか、あるいはαオスなどの形質の影響なのか気になった。個体識別を通して今後どのようなことが分かっていくのか大変興味深い。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

表2: ヤクザルの個体識別 (Aグループ)					
ID	Name	Sex	Age	Offspring	Features
1	Omu	Male	>15	-	red spots under both eyes, dip under the lower lip, 4th finger of L hand is stiff
2	Miran	Male	15	-	red spots under both eyes, some black points around nose
3	Yakitori	Male	7-8	-	Scar on the nose, red spots under the eyes
4	Aba	Male	7-8	-	Scar on the left side of the nose
5	Deji	Male	6-7	-	4th finger of R foot is stiff
6	Maji	Male	15	-	3rd finger of R hand is curved
7	Namari	Male	-	-	white around right eye, under the left eye
8	Tankan	Female	-	-	No hair above the right eye, white on the nose
9	Ponkan	Female	>18	0yrs sex unknown	hair around the eyes seems to be old
10	Tsumi	Female	-	-	scab above the right eye
11	Tate	Female	4-5	-	R hand is curved
12	Nisa	Female	12	-	big
13	Ohayo	Female	12-13	-	The base of right thigh is hairless, white under eyes

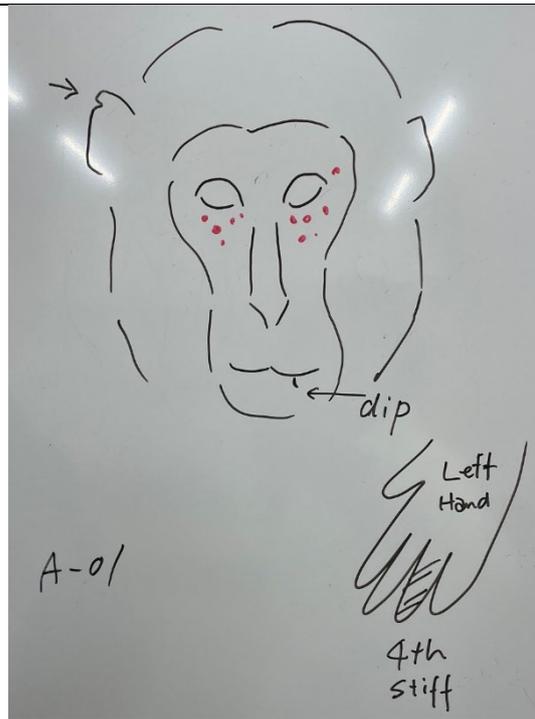


図 2: ヤクザル A グループ、ID 1 の個体の写真  
(撮影: 鈴木崇文氏)

図 3: ヤクザル A グループ、ID 1 の個体のスケッチ  
(スケッチ: 杉浦秀樹准教授)

※メンター (PWS プログラム指導教員) が確認済の報告書を【[report@pws.wrc.kyoto-u.ac.jp](mailto:report@pws.wrc.kyoto-u.ac.jp)】宛にご提出ください。

6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS よりご支援いただきました。実習へのご支援感謝いたします。  
また、実習の引率と丁寧なご指導をしてくださいました杉浦先生、三谷先生、鈴木様に深く感謝申し上げます。

**「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書**  
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)